

2011～2012年度
国際ローターテーマ



『こころの中を見つめよう
博愛を広げるために』

KAWASAKI TAKATSU R.C.

第2590地区第3グループ 川崎高津ロータリークラブ

2011～2012

事務局：〒213-0041川崎市高津区溝口2-14-1むらたビル3F
 例会場：ホテルKSP TEL 044-819-2211
 例会日：毎週木曜日 12:30 / 毎月第4週 18:00
 会長：田中 薫
 幹事：鈴木 良一



R.I.会長
Kalyan
Banerjee

クラブ年度テーマ

『ローターの原点にたちかえり、思いやりの気持ちを持とう』

点鐘・開会宣言・歌唱

田中 薫会長 「それでこそローター」

お客様

海野芳彦様(卓話者)

報告

会長報告
 * 2010-11年度 第1・2・3グループ IM会計報告書が届いております。
 * 2011年7月半期報告書を提出しました。これに基づき前期の人頭分担金715.5ドル(レート82円で58,671円)を送金致しました。
 幹事報告
 * 平成23年度川崎市制記念多摩川花火大会の協賛金依頼が届いております。
 * 平成23年度 高津地区血液対策協議会の開催の案内が届いております。
 日時:9月7日(水)13:30～
 会場:高津区役所保健福祉センター1階 保健ホール
 近隣クラブ 例会変更のお知らせ
 * 川崎鷺沼RC:7月27日(水)8:00～
 早朝例会 杉ルメツ溝ノ口「桂林」
 * 川崎多摩RC:7月28日(木)18:30～
 通常例会を夜間例会に変更
 * 川崎稲生RC:7月29日(金)18:30～
 移動例会 稲田堤「絵」
 * 川崎麻生RC:7月29日(金)18:30～
 移動例会 納涼家族会「アハ-テ」
 * 横浜東RC:8月5日(金)18:00～
 移動例会 納涼家族会 レストラン「ビザ-ト」
 近隣クラブ FAX番号変更のお知らせ
 * 川崎鷺沼RC 044-750-0190
 近隣クラブ より会報が恵送されております。お目通し下さい。(順不同) 川崎中央RC 川崎RC
 諸事お知らせ
 * 次週7月28日(木)の例会プログラムは家庭集会「今後の高津RCについて」夜間例会です。長戸ガバナ補佐が訪問されます。
 委員会報告
 * **ローター情報委員会** 相馬 元委員長
 7/14に地区R情報・雑誌広報・ITセンターに森山会員と一緒に出席しました。前年度の東日本大震災の義援金について上澤ガバナより使用用途が決まり次第皆様に報告しますとの事でした。支援の状況や予定を、今後の方針等の参考としたいので、クラブの活動や個人での活動も含めてまとめて報告しますので、協力をお願いします。

第3回 例会記録

通算：第1245号
 例会日：平成23年7月21日
 発行日：平成23年7月28日

今週のプログラム：「卓話」
 次回のプログラム：「家庭集会 夜間例会」
 ニコドネーションメッセージ

*RC会員(敬称略、順不同)

田中 薫 海野様、卓話よろしくお願ひします。
 福住亮雄 しばらくご無沙汰しておりました。遅ればせながら田中年度のスタートおめでとうございます。役員の皆様もご苦労様です。
 相馬 元 本日は一番乗りで来ました。前年度の活動報告書の提出、お早めにお願ひします。

	件	合計	累計	目標額	達成率
ローター財団	11	11,000	41,000	336,000	12.20%
米山奨学会	10	10,000	41,000	560,000	7.32%
ニコドBOX	12	15,000	69,000	1,000,000	6.90%
ランドリーBOX	11	12,000	47,000	500,000	9.40%

	会員数	出席義務者	欠席数	出席率	MU	前々回修正
本日	27	25	7	72.00%		
前々回	27	25	7	7月7日分	7	100.00%

クラブ会報委員会

本藤光隆委員長 相馬 元副委員長
 三富末雄委員 森山圭介委員 編集担当：相馬 元

7月21日のプログラム

卓話「景色と共に・・・人生は楽しい錯覚」 海野芳彦様

景色を作るという事はおよそ100年で、日本ではまづ罰あたりの行為です。
 「山を削るなんてとんでもないよ」「景色を作るなんてとんでもないよ。」これは当然のことであって八百万の神がいる日本という国は、北から南まで真冬には猛雪が降り、暴風や雪があれば、いたるところが凍りついて田畑一切動かさない。東北の人たちは春を待つてじっと耐え、その間は家の中で仕事をして年間を通してきました。そういう国土にありながら、そこに景色を作るなんてことは、およそ100年で。
 江戸時代はどうだったか？江戸というのは上屋敷・中屋敷・下屋敷を合わせて、千近い庭がありました。それらが景色を作っていました。景観というのは作ってから10年経って景観といひます。つまり、木を植えて支柱が外されて、なんとなく落ちてきたというのを、景観10年といひます。



風景百年といえます。風土は千年といえます。
つまり、百年経たないと風景とは言わないのです。
これは、歴史が歴史を重ねて生まれた時から歳を取っても変わらない景色の事を言います。
小さい頃に遊んだ場所に行ってみましょう。小さい頃に遊んだ場所に行った時に、風景や景色が変わってなかったとします。そこに、孫を連れて行ったとします。孫がそこで遊んでいます。
「おじいちゃんも小さい頃、もう死んじゃったお前のひいおじいちゃんに、よく連れて来てもらったよ。」孫は話なんて聞かないで遊んでいます。言った本人の涙腺が緩みます。これを「風景」と言います。
心の中に景色と言う物が、皆さんにもあると思います。その景色がどんな景色だけ思い出して頂きたい。これを心象風景と言います。風景と言うのは心が作り出すのです。
最後に、「吾輩は犬である」というつまらない文章を書いたのでこれを読んで終わりにしたいと思います。



吾輩は犬である。吾輩と言うほどの輩ではないが、こう見えてれっきとした田園子である。
線路沿いの農家の納屋に生まれたが、両親は分からない。回りは広大な田んぼと畑、遠方には霞が掛る雪解けの連山が、田植えの季節を知らせ、思わず走り回りたくなる。そんなのどかな田舎である。
単線の車両音は毎日規則正しく、ガトガトと納屋を揺らし鳴り響き、時にはその汽笛が、コトリや牛の鳴き声と共鳴して。
やがて吾輩は、里の家に貰われていく事となった。吾輩の存在は、犬でありながら、初可愛がりされ、以前では忘れられることもあった朝夕の食事は、さながらの料理で犬王子になった気分さえあり、昼寝の時間も以前の様な騒音はなくソファに横たわり静か極まりない状況である。



貰われて3カ月もしたころだろうか？今までの蒸し暑さが日の短さに癒され、徐々に秋の気配が漂い始めると何故か単線車両のガトと稲穂、そして遊び相手だった赤とんぼの風景が恋しくたまらなくなってきた。
ある日静か極まりないソファの中でふと気がついた。吾輩が生まれ、吾輩が育った農家の納屋は、騒音であるはずのガト音に癒され、鳥や牛の声そして周囲の風景が、季節と共に生きる喜びを体感させてくれた事を。
可愛がってくれた、そして王子様のような生活を提供してくれた今の飼い主には大変申し訳ないが、早朝の汽笛を聞くと何故か目頭が潤み、もう遣り切れなくなってしまいお暇を取らせて頂くことにした。
帰宅後の納屋は言うまでもない。相変わらずのガト音に心揺すられ、吾輩の寝床である乾燥した敷き藁は懐かしい日向の匂い。周囲の田んぼは稲穂を垂らし、遊び仲間の赤とんぼの舞に、また目頭が潤み吾輩の原点を見つけ、わが心の故郷に回帰した感で一杯となった。

